

自動車钣金工場が 「キッチンカー事業」を始めた理由

スピーカー

わたる

小川原 航さん

(有限会社小川原自動車钣金・専務取締役)

大学卒業後、盛岡市内の造り酒屋で営業職として働いた後、26歳で家業に入社。

2020年にキッチンカー事業「CARRY BASE (キャリーベース)」を本格的に立ち上げる。

ブランディングクラブ
オンラインサロン**7月1日(水)**
17:30~18:30

※6月25日の開催予定から、
スケジュール変更となりました。

- ◆Zoomによるオンライン開催
(17:15にZoomを立ち上げます)
- ◆事前に参加の可否をご連絡ください

■自動車钣金工場の新規事業「CARRY BASE (キャリーベース)」

盛岡駅から車で約15分、田んぼや畑が広がる郊外に1963年創業の小川原自動車钣金があります。専務の小川原さんは会社の成り立ちを次のように語ります。

「祖父が車の板金塗装を始め、やがて整備全般も行うようになりました。当初はディーラーの下請けでしたが、父の代で個人向けにシフトしました」。

一見すると、よくある車の板金修理工場ですが、敷地左手に雰囲気異なる建物があります。中へ入るとモダンな内装で、そのギャップに驚いてしまいます。

この場所は、軽トラックをキッチンカーやキャンピングカーにカスタマイズする同社の新規事業「CARRY BASE (キャリーベース)」のオフィスです。



高い技術力を持った社員たち

■新規事業のきっかけは一枚のFaxから始まりました

クラブ会員の中にも、新規事業を検討し、実際に取り組んでいるところもあります。しかし、新規事業を立ち上げ、軌道に乗せるのは容易なことではありません。

入社した小川原さんが感じたことは、社員たちの高い技術力でした。しかし、このすごい技術が、きちんと評価されていないことに悔しさも感じていたのです。

ある日、キッチンカーやキャンピングカーの代理店募集のFaxが届きました。これは自社でも十分できると感じた小川原さんは新規事業の準備を始めます。

そして2020年に軽トラをキッチンカーにする事業「CARRY BASE」を立ち上げました。そのプロセスと現状をお話いただき、新規事業の成功ポイントを考えます。



イベント出展中のキッチンカー

次回
予告

7/10日(木) 17:30~18:30

大隅秀子さん(リビズ株式会社 専務取締役)

時代に求められる問屋機能の充実を目指して



ブランディングで中小企業と地域のいまを輝かせます

株式会社 クエストリー

TEL:03-5148-2508

QUESTORY <https://www.questory.co.jp>